

保育者ワークショップ

【保育のユニバーサルデザイン①】

情報共有のための観察と記録の視点

幼児教育学科 講師 中尾 繁史

【講座趣旨】

気がかりな子どもや発達のゆっくりな子どものことを、保護者や同僚と共有したいのにうまく説明できない…なんてことはありませんか。普段の子どもの様子を上手にわかりやすく伝えるために、どのように記録を書くとわかりやすく整理できるのか、「観察のための視点」と「記録のための視点」を保育現場での経験を振り返ってまとめましょう。

【開催期日・場所】

平成 30 年 9 月 22 日 (土) 10:00 ~ 12:00

仁愛女子短期大学 E208

参加者：11 名

【講座内容】

保育者は子どもたちと関わる中で、保護者に伝えたい、同僚と共有したいと思う場面に日々出会っていると思います。しかし、刻々と時間が過ぎ、次々とやるべきことが迫り、気がつけば 1 日が終わっているという経験は誰でも持っていると思います。時間を巻き戻すことは出来ませんし、同じ状況を再現したくても叶いません。そのため、効率的に記憶を整理し記録として残すためにも、どのような視

点で子どもを観察し記録をするのかを理解しておくことは保育者にとって有益だと考えます。

このようなテーマのワークショップが企画され、一定の参加者が集まることから、日々子どもたちと関わりながら安定して観察を行い、正確な記録を行うことの難しさを保育者が認識していると伺えます。保育者が 1 人でクラスを担当する場合、活動全体を統制しながら観察をしなければなりません。ここに本質的な難しさがあります。観察者が活動に参加する参与観察においては、活動のコントロールに使うリソースと、活動を観察・記録するリソースは二律背反の関係にあります。観察の正確性を確保するためには視点がぶれず、目的の観察領域に的を絞って観察することが重要となります。

この講座では、観察の際の注目すべき視点として、観察対象となる子どもの①身体的側面(身体の向きや動き、緊張 or リラックスなど)、②対人関係面(保育者と子ども、子ども同士)、③物との関係、④遊びや活動の始まりや変化、集結の仕方などを参加者同士で確認しました。さらに、対象の子どもの発達段階に合わせて保育者が観察すべき内容も変化するため、5 歳児の遊び場面での行動についてビデオ教材を元に模擬記録を行いました。



【参加者所感】

- 記録をとることの必要性や重要性、また観点を学ぶことができ、園に戻って職員に知らせる事ができると思う。DVDを観ながら実際に自分が記録をとってみる実習をしたところ、あまりにも記録がとれていないことが分かり、正直なところ情けなく感じた。
- 日々の保育の中で、実習生がしているように、現場で働く保育士もメモなどを持ち歩き、子どもの言動の記録をとり、一日のある場面を振り返り、しっかり記録に残し、それをもとに職員間で共有し合う訓練も大事ななと思った。
- 日頃、気になっていたことが少し理解できたように思う。なかなか園に持ち帰り統一したりするのは難しいが、参考にしていきたいと思った。
- 記録の書き方がどうやったら上手くまとまるかなど分からなかったが、他の人の記録を見て意見交換したり、レジュメに記録のいろいろな書き方が載っていて、こんな書き方もあるのだと勉強になった。こういう風に記録の書き方を学ばせていただいて、少しスッキリした。少しずつうまく書けるようになればいいと思う。
- 記録を取ることは、子どもの姿や成長、自分の保育が見えてくる大切なものだという事は理解しているつもりだが、日々の保育に追われて、なかなかじっくり記録に時間がとれないのが現状。今日学んだ、見るポイント、また、様々な記録の取り方を参考にしながら、短い時間で他人に伝わる記録が書けるよう努めたいと思う。
- 現場では、記録は欠かせないもので、またそれを職員同士共有させることが子どもの成長につながることは分かっているが、実践が難しい。今日の研修の中で、まず、子どもの行動の捉え方（書き方）それを職員同士が共有（伝える）できるポイントをいただいた。記録を通して、もっと子どもの姿を語りあって、よい保育士となるよう進めていけたらと感じた。
- 記録は非常に手間がかかり面倒な作業ではありますが、これを簡潔で手軽なものに変えていくには、日頃から①原因、②行動、③結果のポイントで観察し、記録をとりながら日々の訓練により自分の頭と体に叩き込んでいくしかないのだと感じた。園での共通書式（ポイント）を共有し、子どもの理解に努めたいと思う（ここがモヤモヤ…なのかなと思う）。



- 改めて、観察と記録は難しいと感じた。ただ、どういった所をポイントとして見たらよいかと、日頃からのその子の特性も踏まえて観察したらよいという事が分かった。毎日の子ども達の様子から原因・行動・結果を考え、自分自身の経験を重ねていかないといけないなと思った。
- 日々行っている記録が、自分の苦手な事の一つであったので、今日の講座に参加して少し学べたかなと思う。今日学んだことを少しでもこれからは活かしていきたいと思う。でもやはり難しいことだなと改めて感じた。
- 記録を取ることは大切な事だと理解はしているものの、いざ実行しようと思うと、難しく他の先生との共有も個々の思い・感じ方・考え方があり、なかなかできずにいたような気がする。今後、どのように進めていこうか…と考えていく中での大きな後押しをしていただいたと思っている。

【まとめ】

保育者の観察と記録の質が高まることは、保育の質の向上と同義であると考えます。しかし保育者間での共有が物理的に難しいなど、組織や制度上の問題も同時に解決する必要があります。地域の保育事業や幼児教育事業を担う保育所、幼稚園、認定こども園、行政と連携しながら、今後も保育の質の向上に資するワークショップを企画したいと思います。